

実験用「植物」

露 木 孝 彦 (化学教室)

天然物有機化学という講座で仕事をした関係上、研究対象として多くの生物を取扱った。就中、植物との付き合いは長く、その数は30年で約40種に達した。そのうち、市販品として入手できる試料は普通の薬品を使うような気持で実験することができた。然し全体としては生きている植物を採集しなければならない場合の方が圧倒的に多かった。

枝、葉などが必要な場合には必要量だけ採集すればよく、植物体の一部を傷つけるものの、その生命まで奪ってしまう訳ではないので、余り罪の意識を感じなかった。ところが化学的に興味がある植物の二次代謝産物の多くのものは根に蓄積されているので、それらを調べるとなると、当然根こそぎ引き抜かなければならない。思い返すと随

分酷いことをしたものだ。

運よくその研究成果が纏まり、論文として発表できた場合には、論文の謝辞の中に、採集でお世話になった方々の名前と共に、植物名と採集場所・日時を記載した。然し根は地中から掘り出されたものの、不幸にして論文にできず、日の目も見ないで闇に葬られてしまった — そのような非道い仕打ちを受けた植物も沢山ある。研究室を去るに当り、お世話になった全植物名を以下に記して、後ればせながら感謝の気持を表し、実験用「植物」の魂の安かれと祈るものである。

イ、オタカラコウ、オニノヤガラ、カイトカラコウ、カクレミノ、カニコウモリ、ガンコウラン、

キビ, キョウチクトウ, キランソウ, キンセンカ,
ゴマナ, コルクガシ, サルビア (セージ), シオ
ン, シラカバ, シラヤマギク, シンジュ, ジンチ
ョウゲ, タイミンガサ, ツワブキ, トウゲブキ,
ニガキ, ノコンギク, ノブキ, ハス, ハリエンジ

ユ, ハンカイソウ, ヒヨドリバナ, フキ, フジバ
カマ, マルバダケブキ, メタカラコウ, モミジガ
サ, ヤブレガサ, ヤマシロギク, ヤマタバコ, ヨ
ツバヒヨドリバナ, リクチュウヤマタバコ, *Brucea*
javanica, *Terminalia arjuna*.